

昭和五十一年三月招集

第一回館山市議會臨時會會議錄

館山市議會

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	二
開會	二
議長の報告	二
議案の配付	二
會議録署名議員の指名	二
会期の決定	二
提案理由の説明	二
議案第三十四号	三
閉會	五
本日の會議に付した事件	五

昭和五十一年三月三十一日(水曜日) 午前十時

館山市役所議場

出席議員 三十名

一番 吉田勇治郎	二番 伊藤幸太郎
三番 穴戸寿夫	四番 押元 稔
五番 黒川平治	六番 鈴木正義
七番 本間昭二	八番 松下正己
九番 鈴木 稔	一〇番 流山源次郎
一番 近藤好雄	一二番 栗原一雄
三番 林 豊	一四番 石井輝久
五番 辻田 実	一六番 安西益男
一七番 石井武敏	一八番 渡辺軍治郎
一九番 渡辺昭夫	二〇番 和田一郎
二一番 田中禄郎	二二番 五十嵐 昇
二三番 菊井敏博	二四番 西村真次
二五番 伊賀多朗	二六番 藤田益治
二七番 速山ヨネ子	二八番 石井 正
二九番 望月照正	三〇番 山口 康

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

市長 長半澤良一	助役 畠山 傳
秘書課長 斉藤武男	庶務課長 綱島憲治
財政課長 長谷川広治	水道課長 大嶋重義
兼衛生課長	
一、出席事務局職員	
事務局長 高尾 豊	事務局長補佐 石井敏夫

書 記 兵 藤 恭 一 書 記 鈴 木 哲
書 記 安 西 良 一 書 記 川 上 義 雄
書 記 福 田 英 雄

一、議事日程

昭和五十一年三月三十一日午前十時開議

日程第一 會議錄署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 議案第三十四号 昭和五十年度館山市水道事業特別会

計補正予算(第五号)

開 会 午前十時五分開会

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十九名、これより昭和五十一年第一回市議會臨時会を開会し直ちに本日の會議を開きます。

議長の報告

○議長(吉田勇治郎君) 本臨時會議案審議のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので御了承願います。

議案の配付

○議長(吉田勇治郎君) 議案を配付いたします。

議案の配付漏れはございませんか。――配付漏れなしと認めます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

會議錄署名議員の指名

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一 會議錄署名議員の指名を行います。

一〇番議員流山源次郎君 二一番議員田中祿郎君、以上兩君を指名いたします。

会期の決定

○議長(吉田勇治郎君) 日程第二、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき、議會運営協議会の意見は、本日一日とすることであります。

おはかりいたします。

会期を一日と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、会期は本日一日と決定いたしました。

提案理由の説明

○議長(吉田勇治郎君) この際、本臨時会招集につき、市長のあつさつ並びに提案理由の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) ごあいさつ並びに提案理由の御説明を申し上げます。

本日は年度末のお忙しい中を、急拠第一回市議會臨時会を招集し、まことに恐縮に存する次第でございます。

今回提出いたしました案件は、昭和五十年年度館山市水道事業特別会計補正予算第五号であります。以下概要につきまして御説明申し上げます。

作名ダム建設事業にかかわる財源につきましては、四十八、四十九年度において防衛施設庁から、防衛施設周辺生活環境整備費補助金を、また厚生省から水道水源開発等整備費補助金をそれぞれ交付されており、本年度においても両者からの補助金を予定していたのでありますが、最近にいたりまして同一事業につき両者から国の補助金を出すことは重複になる可能性があると国において慎重に検討してまいりました結果、やはり重複になるという結論に達し、厚生省の補助金のうち八千三百五十万円については起債にて措置することになりましたので、今回これに伴う予算の補正を行うものでございます。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上であいさつ並びに説明を終わります。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第三十四号昭和五十年年度館山市水道事業特別会計補正予算を議題といたします。

議案第三十四号 昭和五十年年度館山市水道事業特別会計補正予算（第五号）

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 議案の説明を求めます。

○水道課長（大嶋重義君） 議案第三十四号の特別会計補正予算第

五号について御説明申し上げます。

今回の補正いたしますものは二件ございます。その一件は資本的収入の補正でございます。

これは、作名ダム建設にかかわる財源の補正でございますが、資本的収入の総額には変更ございません。

第一項の企業債におきまして八千三百五十万を財源を追加いたしましたして四億四千二百七十万に、また第二項の国庫支出金につきましては八千三百五十万円の減額でございますして、合計におきまして三億四千百一十一万一千円にしようとするものでございます。

次にめくっていただきましたしまして財源で二件ございますが、企業債の補正でございます。先ほど御説明申し上げましたように、財源に企業債をもってあてるということでございますので、今回八千三百五十万円を追加いたしましたして合計を三億四千六百五十万円にしようというものでございます。

今回、この補正をお願いしようという目的は、ただいま市長から御説明がありましたとおりでございますして、厚生省の補助が防衛施設庁の補助に重複する金額八千三百五十万円を減額し、同額の企業債をこれに充当しようとするものでございます。

この内容につきましては、のちほど御説明いたしますが、これに関連の説明書といたしましては、ここに実施計画と継続費に関する調書の補正を揭示してございますのでご覧いただきたいと思います。

実施計画及び継続費に関する調書につきましては、いずれも補助金と企業債との差しかえだけのものではございますので御了承いただきたいと思います。

それでは最後の頁をご覧いただきたいと思ひます。

資本的収入のうち、国庫補助金におきましては水道水源開発費補助金、いわゆる厚生補助でございますが、八千三百五十万円を減額して補助金の合計を三億四千百一十一万一千円にしようとするものでございます。補正後の内訳は、防衛施設庁の補助金で三億二千七百七十八千円、厚生省の補助金で千四百三十三万三千円に相なります。で、この厚生補助金でございますが、今年度の交付予定額は九千七百五十三万三千円でありましたが、そのうち八千三百五十万円は防衛補助と重複いたしますので減額となりますが、残りの一千四百三十三万三千円は重複にならない補助対象事業費に対する補助金でございます。

その補助金につきましては、厚生省とも再三協議いたしました結果、財源として残してさしつかえないという厚生省の指示に従ったものでございます。

次に企業債におきまして、補助金の財源といたしまして八千三百五十万円を追加いたしました、企業債の合計を四億四千二百七十万円にしようとするものでございます。それで補正後の内訳は上水道企業債三億四千六百五十万円、中央水道企業債九千六百二十万円とあひなります。

なお、今回の財源の補正を行うわけでございますが、ダム工事の内容やら進捗状況には何ら影響ございませんで、工事の方も予定どおり順調に進んでおりますのでよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。御質疑をお願いいたします。

○一八番（渡辺軍治郎君） 説明では、従来厚生省からの補助金が認められていたやつが、今回交渉の結果認められないというようにその理由ですね、結局、財政の引き締めとかそういうようなことが原因になっているのかどうか、それが一つと、補正予算で計上されておりますけれど、予算編成時点でこういうようなことが厚生省、あるいは防衛庁の関係ではっきりしていなかった。これは交渉の過程の問題だと思ひますが、今になって補正予算を組むと三月議会ですから編成時点でこういうことがわからなかったのかどうか、交渉過程そういうようなことについて伺いたいと思ひます。

○水道課長（大嶋重義君） それではお答え申し上げます。今回、厚生省の補助の減額でございますけれども、これにつきましては、実はことしの二月の上旬に防衛施設庁の方からことしの五月頃に会計検査があるということでございまして、それについて厚生省の補助というのが大きな額をしめていられるけれどもこれは何であるか、というようにことで問い合わせがありまして、その後防衛施設庁と厚生省の担当者間でいろいろと検討がなされたもようでございます。その結果、三月十日でございまして、正式に厚生省の方から、ひとつ出向いていろいろと協議いたしたいということで私も県とともに参ったわけでございますが、これによりまして、いと、結局いろいろ、最後には四月二十三日にはっきりしたわけでございますが、厚生省の方の審査が不十分だということで、非常に御迷惑をかけるけれども御協力お願いしたい、というよう

な事になったわけでございます。

私も、これにつきましては、当初防衛施設庁あるいは厚生省、特に厚生省につきましてはこういった民生安定で補助事業としても先発しているんだということは充分説明いたしまして、これは県を通じて充分説明したわけでございますが、その辺に國の方で片一方は防衛庁の方は民生安定、こういった施設があるためにその周辺の水道施設に対して補助を行う、厚生省の方は水道水源開発の關係で整備費を補助していく、こういうようなことで出発したわけでございます、それを今回経過した後、そういうような結論に達してこれを更生せざるを得なくなったという事情でございます。

従いまして私も、当初予算の編成の時点ではその面については何ら重複しないものとして、一応当初予算の段階で予算計上したわけです。

一五番（辻田 実君） 説明によりますと、補助の重複ということでもって返還命令があるということでございますけれども、非常に額も大きいし、この種の問題については、やはりその経過と内容というものを充分お聞きしたいと思うわけでございます。

そこでもって、私も十分調べる事ができなくて申しわけなかつたのでございますけれども、四十九年三月の議会におきましてはじめて厚生省の補助金があるということが説明されました、その時に計上された当初の予算で三百八十万円だというふうに思いますけれども、厚生省の補助金がですね。従いましてこの額は補正でございますから四十八年度の補助金だと思えますから、従いましてまず、最初に四十八年度と四十九年度におきますところ

の厚生省の補助金の支払というんですか、決算された額につきまして、もう一度教えていただきたいと思ひます。

○水道課長（大嶋重義君） お答え申し上げます。四十八年度の厚生補助は二千八百四十八万七千円でございます。それから四十九年度は一千六百三万円、以上のとおりであります。

○一五番（辻田 実君） 四十八年度、四十九年度の決算につきましては、これにはまず、第一には返還命令云々ということは現在の状況で出ておるのかいないのか、まず第一点聞きたいということ。それから第二番目に今回の補正の中におきまして千四百三万円の厚生省補助金については認められるということについて、ちょっと納得というんですか、意味がわからないわけです。といひますのは、重複した補助金であれば全額だめなような気がするわけです。しかしながら、重複しない部面が千四百三万円あるということですから、どうしても、どうしても重複しないのかと、どうしても千三百五十万という額が重複したのか、この点についてお伺ひしたいわけでございます。

○水道課長（大嶋重義君） では第一点からお答え申し上げます。

この四十八年度、四十九年度については、返還命令は受けておりません。それで会計検査につきましては、厚生省、防衛庁とも毎年行われておりまして済んでおります。それから、なお返還命令でございますが、五十年度的についても別にまだ返還命令は受けたいわけではございませんけれども、事前に正確を期していきたいということで検討した結果が五十年度に限って、このような措置をするということにあつたわけでございます。

それから五十年度で重複しない補助金として千四百万あまりよ

こす、ということとこの関係についてのお答えでございますが、五十年度的におきまして補助金を出す場合に防衛補助にしても厚生補助にいたしましても、一応補助対象事業費というものをを出しまして、それに対して防衛施設庁は自分の方で、あるいは厚生省は複雑な算式がございますけれども、これを計算して出すということとでございます。

この補助対象事業費のとりえ方がダブっておってはまずいということから、これが厚生補助につきましては、もろに防衛庁のものとダブっておった関係で、一応このものは取り除かなければならないということになったわけですが、五十年度の厚生省といたしましても大きな一つの事務処理でございますので、何かやはり市に対して、市の事業に対して、対象になるものがあつたら少しでもこれは救済していききたい、というようなことから五十年年度の市の単独事業のものについてひろつたわけでございます。

この中に防衛施設庁の補助の対象にならないもので、立木の補償と立木の伐採、それから山、山林で残地補償でわずかのものがございます。これをひくくろめますという、四千二百万あまりのものがございます。これは防衛庁の対象になっておりませんから、この分に対しては新たにこれを認めて、市に厚生補助として支出しようということと協議が整いました、このような措置をいたしたわけでございます。

○一五番(辻田 実君) 今の後段の内容については私は理解できません。それで四十九年三月議会において、初めて厚生省の補助金が防衛庁の補助金とともにプラスされてついたという一項が議事録に残っているだけでもって、当時の模様はこの厚生省関係

については全然暗いというか、本会議における答弁がない。ですからこれについては、当時の状況を推測するといふんですか、そういうことでは申しわけないんですが、私は当時全員協議会等において、当時、この頃は本間市長さんが休んでおられまして、助役等課長等の方からの説明が主であつたわけでございますけれども、その中において、今後段において説明があつたような説明で厚生省の補助がつくというようにすることで私認識しておつたわけでございます。ということは、水資源の開発ということでそのダムの周辺とか、ダムを開発するについてダム本体工事というんですか、その中心工事の防衛庁の補助金がありて行われると、それとは違う部面のいろいろ周辺を整備していかなければいけない問題がある。いまお話のありました立木とか残地整理とか、こういういろんなものがでてくると、これは防衛庁の補助金の対象枠外になるので、これらのものについては幸いにして水資源開発の方から補助金がでるといふような認識をもつておつたわけでございます。ですから今回につきまして防衛庁の補助とそれがダブつておるといふことについては、非常に驚いたという一面あつたわけですよ。で、それを聞いた時に当然ダブつておればこれは返還命令をくうのは当然だということと聞いておつたわけでございますけれども、これを今説明聞いておる中でもって、やはりどうしても四十八年度において二千八百四十八万、四十九年については決算においてこれが若干さがって一千六百三万とこいうふうになっておりますから、今回においてもだいたい一千四百万程度の重複しない部面の結局、九千七百五十三万といふんですか、これから差し引いた八千三百五十万ということと差し引きの

一千四百万、これは認められるということでございますから、こ
こらへんに今年はどうして九千七百万という形が計上されたのか
です。当初予算の説明の中におきましては、防衛庁の補助金に
並行してですね。そして厚生省の補助金も増額するようになつた
と。そして九月の補正の中におきまして、やはりここに議事録
をみますと厚生省関係におきまして、これは防衛施設庁の補助
が事業量がふえることによつて、やはり厚生省関係のものも増額
しようということで、さらにここにふえることになつたわけでご
ざいます。ということと九月に追加されておるわけでございます。

で、同様にして、十二月におきまして予算の残、その他があり
まして、十二月には、同様の趣旨の話がございまして、市長と何
回となく防衛施設庁にまいりまして、強い要望をしたわけでござ
いまして、国においては館山市の実情を理解していただいて、今
回追加補正していただきたい。ということと、当時の金で二千五
百八十万というのが追加がされまして、そして、こういうふうに
なつたわけでございますけれども、今年度に入りましてからそう
いう面でもって、若干こちらの方の事務手続その他において、問
題というんですか、あつたんじゃないかというふうに思われる、
当然その経過からいましてですね。

問題があつたんじゃないかと思われるのは、さっき、後段で説
明しましたように重複しない部面について、厚生省から補助をも
らつておるといのが、今、九月と十二月の補正の議事録読んだ
中に、ここに防衛庁の補助金と重複してもらえようになつたと
いう変化ができてゐるわけです。

四十八、四十九年度の議事録ではそうでてないんです。厚生省

の補助金の加わるることによつて多少ふえるということでありま

す。五十年度になりますと、防衛庁の補助が事業量がふえることによつて補助もふえてゐるということですね。これは、まったく同一のものに二重に重なつたというのが五十年度に出て来たわけです。重なつた結果ですね、このように九千万というような膨大な額になつたわけで、四十八、四十九年とは違つた膨大な額になつて、結果的には、先ほどの市長ならびに課長の説明でいきますと、重複しておつたので、これが返還しないと問題がおきそうなのでどうか、正確を期すために返還することになつたということとでございますけれども、正確を期すために返還するという状態が生じてくれば、千四百万という金はこれを返さなければいけないんじゃないか、数字的にいうと、四十八年、四十九年、二千八百万、千六百万、そして五十年度は千四百万というので、この事業の進捗によりましてですね。周辺の水資源の開発による周辺整備というんですか、こういう事業量が漸減していく傾向が一つのグラフによつて傾向がはっきりしてゐるわけです。それが急激、五十年度になつて大幅に上がつてゐるということですね。本来、四十八年に、はじめて厚生省の補助金をもらつた当時の話と、い

つの間にか五十年度に入つてからそれが何らかの形で、本体工事の工事費に対して補助金ができるというふうに変つたわけですね、というふうには判断されたわけですが、ここらへんの状況は事務局等においてはどのように処理されたのか、このところをやつぱり明確にしておかないと具合の悪い点が出てくるんじゃないかと思ひますので、その点について少し細かく御説明いただきたいと思います。

○水道課長（大嶋重義君）

お答え申し上げます。四十八年度は主な事業費は用地買収、四十九年度は本工事をやる前の仮設備、それから仮設備場にゆく工事用の道路、それから一部が本工事にわずか入ったのか四十九年度で、五十年年度は、もう当初から本工一本で。この三年間の中で五十年年度が事業量、内容あるいは金額ともに大きなウエイトをしめている。こういうような状態になっているわけです。

それから、四十八、四十九年度におきましても、今度、私の方で仕分けしたような分け方でなくして、今までもやはり防衛のものと対象費がダブって申請し、交付が受けられて来たということでございますが、ですから、この関係につきましては、これの受け方については五十年年度が四十九年度と違っているということはないわけでございますけれども、額が非常に多いものですから、特別な方法があったんじゃないかというふうに考えられがちでございますが、この点につきましては以上のとおりでございます。

ですから、四十九年度は特に、厚生省の考え方が水道水源費の補助という目的は、一つの高料金対策というようにことで、従って、ダムに非常に金がかかるので施設対策費の補助をしようというのが厚生補助の目的でございます。

防衛補助の関係はさっきも申し上げましたように、民生安定ということでございますので、ダムだけでなく水道の浄水施設、あるいは配管施設等をひくくめるためのものを対象にしているわけでございます。こういったような大きな違いがあるわけです。

こういったことと、四十八、四十九年度の厚生省、もう一つはダムが三十四万トンから六十三万トンにふえたわけでございます。

それは、水道水用のダムがふえたわけでなくて河川維持用としての名目で工事がふえたわけでございます。

従いまして、厚生省の方は、当初は四十八年度は六十三万トンのものではじいたものが当初の計画の三十四万トンといいますが、こういったような一つの比率でもって計算するというようなことになりました、四十九年度に四十八年度のものを調整すること、これで、これが減っているという形になっておるわけでございます。こういったような事情がございまして、五十年度へと参ったわけでございます。以上のような経過でございます。

○一五番（辻田 実君）

私はここでもって非常にこまかく聞いておきたいことは、この関係は、きちんとどういう理由かということとは明確にならないと四十八年、四十九年の支出にまわしたところの四千四百五十一万の分について、また返還しなければならぬという状況が当然でくるということが予想されると、さらに今年度は正確を期すために自主的に千四百万というものを保留したわけでございます。

従いまして、その残額の八千三百万について返還するわけでございますけれども、またこれがいけないということになれば、いけないという観点に立てば、従いましてこれがプラスされますと約六千万近くのものがでけると、さらに今年度の当初予算につきまして、これはのちほど御質問深くいたしますけれども、当初予算について三千五百万というのが計上されておるわけでございます。これを合わせますと、しめて一億の金というものが不足するという状況が出てくるわけです。補助がおりないわけですか。

この処置を今、この財政難の状況の中において、明日からはじまる五十一年度予算の中でもって、また起債にしても若干繰り込んでいるかなければならないと、今回八千三百五十万というものを繰り込んで、なお、この他に一億円が私の方からみるとちらついているわけです。ですから、このことを明確にしておかないとさらにこのようにことが、次から次へ出てくるんじゃないかというふうに思われまして質問するわけでございまして、今、そういう観点で一つ御答弁いただきたいわけでございますけれども、当初作名ダムにつきましては、防衛施設庁との連携の中において三十八万トンでやるということでスタートして、館山市の水事情の困難性の中からなんとか当時の市長との強引な防衛庁との説得交渉の結果、約倍の六十三万トンと最終的には持ち上げた、この過程が今御説明ありましたように、四十八年度の後半になるわけです。

大きくふくれ上がっていったのが。その過程の中でもって非常に大きな努力と変化していく中において、今説明がありましたように、ふえた分は防衛庁の補助がない、という当初の三十八万トンふえた分はおりないというものもおりるということになったと、だけれども、これは十分でないので厚生省のものも水資源というものがあるので、それを加えて補っていくので、この三十八万トンをオーバーする、六十三万トンに達する、そのオーバーする面について多少、防衛庁に全部というわけにはいかない、それで厚生省関係のこういう補助金もあるので、これに加えて、そしてこれができるだけ軽減して行きたいと、こういう説明が當時なされておったわけです。

で、私も、こういう中で認識しておりますから、従って、こ

のふえた中でもって新しく厚生省の問題がでて来たと、しかしふえた部分だから、防衛庁のもんだから直接重複とかはありえないということ、従いまして、九月の補正、十二月の補正についてはそういう観点に立って理解しておたわけでございます。

しかしながら、議事録を詳細に見てみますという、私の方もうかつというんですか、当時質問しなかったのは。そういうことを理解しておきながら、実際には防衛庁の補助事業量がふえるに従って厚生省のもふえる、という説明が議事録に載ってますから、たしかにそのような説明を受けたわけです。

そうなってくると、今年度から完全に本体工事一本になったということがわかったわけです。こうなってくれば、そういう初歩的なミスがでてくるんじゃないかと思うわけでございますけれども、そこで私は、二者択一の總でこの理論的に整理できないかというのを伺いたいわけです。

というのは、私一つは今年度は本体工事に重複してると、そうすると四十八年度と四十九年度までは本体工事について防衛庁と重複しないということがいえるのかどうか。従って今年度については、千四百万だけは重複しないことがわかりましたけれども、それから、五十一年度予算の三千五百万は説明によりますと本体工事に伴うということになってますから、これはどうなのか、重複しているのかしていないのか、この点をもうちょっとこまかく聞きたい。

先ほどの説明でございますと、四十八年度につきましては、土地の買収費ということでもって、これは重複がみられない感じがするわけでございます。四十九年度については、仮設工事等を行

って一部本工事に加わったということでございますから、これは仮設工事が中心でございますから、この仮設工事は防衛庁の補助外だと思えますから、契約残かなんかで多少本体工事にまわったというふうに理解していいものかどうか、そうすると、そういう理解でみますと四十八、四十九年度は仮設工事を中心とした補助金でございますから、法的にも理論的にも重複してないというふうに思うわけでございますけれども、そういう観点に立つならば五十年度は明らかに重複したものを作ったと、どうしてここでもって重複したものを作りあげちゃった、この点をお伺いしたいわけであります。

私が今、理解したのが正しいのか、それとも当初からそういうことじゃなくて、防衛庁の補助金の六割ですか、水資源の方が二割ということで、最初から四十八年、四十九年、五十年と、そして五十一年度の今年の予算編成にあたっては、そういうことに關係なく先ほど来若干説明があるように、もう一貫して防衛庁、厚生省というものは一体となって補助金が来たのか、そのいずれなのか、このところを私がそういうふうにわかるのが間違っているのかですね、そのところをどれがどうなのか、明確にしたいいただきたいと思うわけでございます。

○水道課長(大嶋重義君) お答え申し上げます。今の御質問に對しまして、こういうようなことを先に申し上げてみたいと思えます。

これは、五十年で重複したとかそういうことでございませんで、四十八年度の厚生省の出發、つける段階で誤まりがあったというところが正しいわけでございます。

これは、この補助金につきましては、防衛施設庁は四十七年度から、先発しているわけでございます。厚生省が後発のかたちになっておりますので、この關係につきましては、もっとはっきりいいますと、初歩的なさつき御指摘のありましたけれども、こういったようなものがそもそもその出發になっているということでございます。

それから、もう一つは防衛と厚生、両省庁間でこうした場合には、十分な連絡をとるということになっておるわけで、事実とつたもようでございますけれども、なお、これを追跡しての調査が十分でなかったということで、この点につきましては厚生省の方でも私共に対してこれを認めておりまして、申しわけないということとで意思表示をしておられます。それで、四十八年度と四十九年度の關係が出てくるわけでございますが、これについてもすでに決算ずみのものでございますが、こうしたものについての措置につきましては、五十一年度あるいは五十二年度となりますが、五十一年度以後において措置してまいりたいということでございます。

御指摘のように五十一年度でのこの予算には、三千五百万の厚生補助を計上してございます。これらの關係につきましても、今後なお厚生省、防衛庁とも十分な連絡をとり協議してその措置を講じてまいりたい、このように考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。

議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ありませんか。

○一四番(石井輝久君) 若干、御質問申し上げます。

○ 今、年度末に来て八千三百五十万の企業債を計上するわけでは

が、一体認可されておるものですか、どうですか、これを一点お伺いしたいと思ひます。

とかく、こういうやりくりで計上するのはいいけれども、認可されなかったということが実際になるとあるわけでございます。従つて、これをお伺いしたいと思ひます。

それから第二点といつまして、防衛施設庁、厚生省、この二つの省、庁の補助金の問題でございますが、これは本来、防衛庁からの補助金は水道拡張事業費として、国庫補助を受けているわけですが、それから、厚生省の場合には水道水源開発費として補助金が来てるわけです。明らかにダブリじゃなくて、別の補助金、別の目的で片方は、防衛庁の方は水道拡張事業費であるという補助金、厚生省の方は水道水源を開発する、明らかに目的が違ふわけです。しかし、作るのは作名ダムのためである。の補助金である。明らかに使ひ目的は違ふ補助金である。これがダブっているといふことの飲み込みがどうしても出来ないのであります。

従つてあなた方が補助金を申請するのに、防衛施設庁にこれこれのために補助金を申請します。よろしゅうございます。これこれの補助金をつけましよう とやつた。一方厚生省に、これこれの目的で水道水源開発費、これこれの水源を開発するんです。これこれのために違ひ目的であるから、どういふ申請をなすつたか、簡単に事務的に結構ですからお聞かせ願ひたいと思ひます。

○水道課長（大嶋重義君） 今回のこの企業債の認可でございますが、これは間違ひなく認可をいただきましたので、確認を得ましたのでここに計上をしたわけでございます。

年度末でございましたので、まだ正式の文書は参りませんけれ

ども、最後は大蔵省の千葉の財務部の許可を得ております。

それから、水道拡張関係は防衛庁、水道水源の開発は厚生省の方の補助を出しているわけでございますが、この関係につきましては、実はこの目的が前にも申し上げましたように、防衛施設庁の補助は、これは防衛施設周辺の生活環境の整備に関する法律というもので、これが第八条を根拠として出しておるわけでございまして、十分の六を出すということで、これは法律の補助でございます。

それから厚生省の関係のものは、厚生省の要綱として出しております、これは高料金、わかりやすく申しますと、水道事業についてはダム、水源確保に非常に金がかかるということで、特にこれは高料金対策として補助を出すということになっております。従ひまして、これは予算補助でございまして、そういう一つの根拠の違いもございします。

それから、ただし、これが最近になって實際御指摘のとおりでございます。私も実はほんとに驚いたりして……

（「何も指摘していませんよ。」と呼ぶ者あり）

○水道課長（大嶋重義君） これが事務的には、厚生省の関係は、毎年年度を替えるにあつて水道開発補助についての要望はどうかというやうなことで、出すことになっていきます。

これについては、当初の昭和四十九年三月の段階で、これは県を通じて厚生省へも私も出向いたり、何度となく説明したわけでございますが、これはダブらない、別個のものだということ、で今まで進んできたわけでございます。

（「答弁が全然違ふ」と呼ぶ者あり）

○水道課長（大嶋重義君） 今の申請の手続きの関係だと思えます

けれども、これについては、この申請の手続は県を通じて厚生省へ出すものですが、その補助対象費というものが、この場合は防衛庁へ出したものと対象になる事業費は同じものでございますがここで重複するということが出て参ります。

○一四番（石井輝久君） 非常にいつも別の、質問に対する答弁じゃなくて別のことを説明してゐるんですよ。私が聞いたのは、事務的に防衛施設庁に出したのは、水道拡張事業費の申請を出したわけですよ。こういう申請でございまして、ということを防衛施設庁に出したはずなんです。それが補助金として交付されてくるわけですよ。だから、どういう内容の補助金を申請したか、防衛施設庁に。簡単なものですよ、あるわけですよ。同様に厚生省にどういうふうに、水道水源開発費、こういう名目で申請したわけですよ、これだけを事務的に聞いてゐるわけですよ。お答え願います。

○水道課長（大嶋重義君） お答え申し上げます。五十年年度につきましては、防衛庁関係のものにおきまして、これは委託料で千五百四十万、それから工事請負費で五億一千七百二十五万三千円、それから、事務費で千二百四十七万八千円、計五億四千五百三十一万一千円でございます。それに対しての補助が三億二千七百七十一千円です。厚生との関係でございまして、厚生の関係のものは補助対象のとりえ方が防衛庁と違うわけでございますが、厚生関係のものにつきましては、工事請負費におきまして二億九千八百七十八万八千円でございまして、これが補助金が九千七百五十三万三千円、このようなことで申請をいたしましたわけでございます。

○一四番（石井輝久君） そういうふうにお答えいただければ再質問する必要はないんですよ。

その、それぞれ二つの省庁に申請したものがたまたまダブっていったと、会計検査の対象になりそうだというんでこういう措置をなすった。しかしながら、事業そのものには全然進捗状況には支障を来たさな。従来の計画どおり進んでいくものであるという御説明です。でこれ以上深くふれませんが、ただ一点先ほどの一五番、辻田議員の答弁でも若干ふれておられますけれども、関連してお伺いしますが、つい先だって可決した昭和五十一年度の予算があるわけですが、今やっておりますのは昭和五十一年度の追加を審議してゐるわけですが、先だって可決確定をいたしました昭和五十一年度の水道特別会計で、水道水資源開発費補助金として厚生省から三千五百万国庫補助金を計上してゐるわけです。水道拡張事業費補助金、これ防衛庁関係二億六千六百万円計上してゐるわけです。計三億百万円が計上されてゐるわけです。これも同様にダブっていったのを我々が当局から御説明承らないままに可決をしたと、このように理解してよろしゅうございますか、関連してお伺いしたいと思ひます。

水道課長（大嶋重義君） この件につきましては、私どもは四十八年度から出発から今日まで正しいものとして、また厚生省としても採択をいたしました進んでまいりましたものでございまして、ごく最近になりました。そうした協議の結果指摘を受けたわけでございますので、議決の段階で実は私共早くそうしたもののがわかればということをやったんですけれども間に合いませんでしたので、それにつきましては五十一年度におきまして機会を得まして、確実な

ものになった上で補正をいたしたい。このように思っております。

○一四番(石井輝久君) そう、言葉にこだわるわけではないんですけど、要するに五十一年度の当初予算の議決もこれは議決しちゃったんだし、当局の御説明もなかったんだけれども、その後、

現在にいたるまでのごく短期間の間にこういったことが持ち上がって来たので、五十一年度の適当な機会に補正をしていくというお答えでございますが、それは三千五百万円の厚生省関係の水道水資源開発補助金というものが、そっくりそのままなくなっちゃうというように理解してよろしいかどうか、これが一点と、もう一つ全体で三千五百万の減額補正をなさるおつもりなのか、あるいは今回の措置と同様に三千五百万の企業債にふりむけての歳入措置を考えているのか、あるいはまた、債務負担行為という手ございましょうが、それだけお伺いしたいと思います。

○水道課長(大嶋重義君) 五十一年度に計上いたしました三千五百万につきましては、その措置につきましては、先ほど申し上げましたように厚生省もこの善後処置については責任を感じているので、今後十分協議して善後処置を講じたいということを言っておりますので、すっかりなくなるかどうかということは今ここで申し上げることはできませんけれども、私共は国が一応採択しました以上、非常に大きな財源でございますし、まして市の財政状況からいきましても、是非少しでも適法なものでこの補助金を財源として持っていきたい。このように考えております。

それから、この減額分は企業債にまわすのか、あるいは債務負担行為、どういう措置にするかということでございますが、それにつきましては何とも申し上げられませんが、こうした

ことにつきましては、県の方でも非常に心配されておりますし、そういった防衛、厚生あるいは県、そういった上級官庁等とも協議をしますけれども、なるべくそういった財源欠陥の生じないよう努力してまいりたいと、このように考えております。

○一四番(石井輝久君) 大体御説明で了解いたしますけれども、厚生省で非常に申しわけないという気持を持っておられるということでございますので、甘えていかれるのは結構でございますけれども、これは要するに国庫補助金が要するに歳入欠陥になるわけですよ。五十年程度ですよ。あてこんだものがどんな事情があったにしても、入らなくなった、そのために企業債にふりむける。企業債というものは、ご承知のように将来にわたって利息が積み重なっていくわけですよ。ですから、全然性格が違うわけですよ。市民負担がそれだけ増大するわけですよ。同じ八千三百万であっても補助金の八千三百万はそのままらっぱなし。それで事業をすすめられる。ただし、起債の八千三百万はその時金が出来ても、それに対する利息、それは市民負担になって重くのしかかってくるわけですよ。ことに、今一般会計で十三億も借金の総額であるわけですよ。それに対する公債費を我々可決しているわけですよ。そういったことで性格が非常に違ってくるんですね。それであえて申し上げているんで、将来とも予算計上、予算措置、これは水道特別会計だけでなく、一般会計の財政当局を含めて過ちなきように厳に要望いたしまして質問打ち切ります。

議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。

○一五番(辻田実君) 二点だけ続けて御質問いたします。

先ほどの答弁の中におきまして、四十八年度、四十九年度の補

助についての面は、五十一年、五十二年以降の補助金の中において処置をしていきたいということが言われたのでございます。これはどのような処置なのか、内容を明らかにしてもらいたい。ということ、補助金はもらえるけれどもこの分によってなくしずしちゃうのか、補助金がふえるのか、この処置というのはどういうことになるのか、その点が伺いたいわけです。この処置の内容がどういう意味なのか、もう少し、

○水道課長(大嶋重義君) この処置でございますが、実は五十一年度におきまして、ダム関係の事業が残っているわけです。厚生省の補助対象は水源開発整備でございますので、ダムの工事とそれから、それに関連する対象費となるものが補助になるわけでございますが、こういったものの中で、あるいはまた、防衛庁の補助であっても両省庁間で協議して、あるものは厚生省に譲れるものもあるというように聞いております。こういうようなことでして、あるいは四十八年度、四十九年度についてもそれが一応済んでおりますけれども、あるいは適当でないということになりますという、そうした今後の補助を調整、救済していくということも考えられるということです。ですから、この関係につきましては、今後防衛とやはり厚生省、県、市の四者で十分協議して進めていくことになるわけです。

いまのところ、これ以上のことは具体的にはわかっておりませんけれども、とにかく厚生省といたしましては、市に非常に御迷惑をかけて申しわけないので、できる限りのこれについては協力するからということを言われております。今のところ、その程度でございます。

○一五番(辻田 実君) 市長に最後の一点だけ聞いておきたいと思いますが、先ほどからいろんな角度から釈明的な説明がなされておるわけでございますけれども、その点について一点、法的な観点で明確な答弁、整理をお願いしたいわけでございますけれども、質疑の中で明らかにになりましたように、四十八年度の厚生省の補助金をもらって以来、今日まで来たということで、あるということとで、従ってその段階において、もうすでに無理があったということですが、重複の無理があったと、そのことについて厚生省の予算的に誤まりがあったので、今回、それが発見されたので、従ってこれが問題になる前に発見されたので、従って、これをその時点で正確を期すために返還すると、こういう流れに集約が私の方ではされてるわけでございますけれども、となってますと、この種の問題についてやはり事務的な問題云々というよりも、この頃から厚生省の補助をもらうということが誤まっておったのかです。誤まっておったということになれば、今後の補助金対象云々に対しての処しかたが、今の石井議員との御質疑等によっても五十一年度以降処置云々というようなことが言われておりますけれども、これはやはり、予算というものは法律で決まってるおるものですから、シビアに考えていかなければならない。少しでも金をもらって来ようという努力はわかるんですけども、そのことがやはり、間違いの上に立ってほおかぶりできれば、いいとは言いませんけれども、市民のためにはやむを得ないとしても、しかし、これは今回のようなことで、ある程度問題が明らかになった上で、これを重ねるということになればですね。今度はそれに伴う予算減の補充によって、いろいろとしわ寄せも出て

くると、そういう場合、こうなった以上はその点がもう厚生省の補助をもらうこと自身が重複して無理があったと、先ほど誤まりということばも出ておりましたけど、そういうことであったのかどうかですね。今後、これについては処置はですね、そういう観点の上に立って措置していくのかですね。なんか今まで厚生省ともそういう面についても話し合っていたので、こっちはミスもないと、だから、むこうも誤まっておるので困る、なんとかしてもらえらうと、こういうふうなことも出ておるものですか、そういう甘い状態ではないんじゃないかというふうに思われるんですけども、そこで一つは今までのものにも無理があった。ある程度法的にも間違いないうんですか、間違いないと語弊がありますけど、若干無理があった、ということでもって認識されておるのかどうか、そこらへんについて、市長の統一見解をお願いしたいというふうに考えております。

○市長（半澤良一君） お答えいたします。厚生省の補助を受けることに無理があったとは考えておりません。やはり、それぞれ目的が違ふ補助でございます。が、対象が同じでございますしたので、たまたま両省庁間の連絡が不十分だったために、こういう基礎的な初歩的なミスが起きて来たということですが、市が防衛庁から補助金をもらい、厚生省からも両方から補助金をもらうということは、決してそこに無理はないというふうに考えております。

また、今年度の場合も千四百三万というものは、適法にもられておるわけでございます。今後とも両省庁に働きかけて適法に補助金をいただくつもりであります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託ならびに討論を省略したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

おはかりいたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

閉会 午前十一時十二分閉会

○議長（吉田勇治郎君） 以上で本臨時会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第一回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件
一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、議案第三十四号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

吉

田

勇治郎

館山市議會議員

流

山

源次郎

館山市議會議員

田

中

禄郎

